



田ノ口小学校

『意欲的に活動し、心豊かに
たくましく生きる児童の育成』

校長 乾 健児

◆居心地の良い学び舎に

子どもたちにとって安心・安全な環境づくりはもちろんであるが、何よりも楽しく学び合える学校であって欲しい。小春日和にできる小さな陽だまりのような学校で子どもたちが穏やかに温かく過ごすことができればと考える。

◆朝マラソンでスタート

子どもたち63名は7時20分前後に登校が開始され、馬荷地区からのスクールバスの到着を待って朝マラソンがスタートする。職員にとって子どもたちの様子をみられる絶好の時間帯である。白い息を吐きながら、それぞれのペースで駆ける子どもたちはどの子も活き活きしている。

◆朝のあいさつ運動

毎週月曜の朝には、早くから児童会執行部のメンバーが

陸橋や校門付近でみんなの登校を出迎えている。「おはよう」の言葉が交わされる光景から金子みすゞの「こだまでしゅうか」が自然に浮かんでくる。

特にあいさつの良い子は朝会で表彰され、みんなの意欲づけになっている。最近では、地域の方々からも「あいさつを自らしてくれるようになった」など評価をいただき児童会の活動の成果が出てきているといえる。

◆体験活動を活かす教育

今年は、保護者の呼びかけがあり2年生と5年生の合同で稲作体験を行うことができた。田植えや稲刈りを協力して行うことにより、連帯や信頼関係が育まれている。また、農業の大切さや作業の大変さ、収穫の喜びなど、教室では学習することのできない、汗する活動が体験できた。



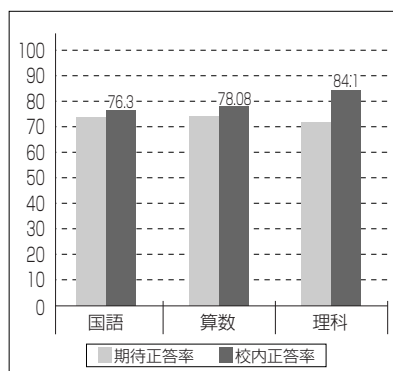
他にも地域の協力を得る中、キュウリの苗植えや収穫も行ってきた。また、幡多青少年の家を活用した中学年による「うどんの手作り」、高学年の「カレー作り」、高学年においては他校との宿泊体験学

習など、体験を通して自ら学ぶ姿勢が育ってきている。

◆学力の定着を目指して

本年度5月に行った標準学力テストの本校の結果はグラフの通りであった。

学校全体としては全国平均を上回っているが、教科により平均を下回っている学年も見られる。4月以降、授業を中心とし、業間や放課後などの加力学習に力を入れている。また、家庭学習の積み重ねの重要性も痛感しており生活習慣や学習習慣の定着に向け取り組みを進めている。



◆講師招へいによる授業改善

各学年の授業を公開し、KJ法を用いて反省し、指導力の向上に努めているが、1学期には先進的な研究を進める高知大学附属小学校の藤田究先生に模範授業や指導に関する示

唆をいただいた。また、2学期には西部教育事務所の小野川憲指導主事より、本校が取り組みのかなめになっている特別活動について研修を受け日々の授業や活動に役立てている。

◆津波などの災害に備える

東日本大震災は田ノ口小の子どもたちにも大きな衝撃を与えている。繰り返し行われたシミュレーションにより被害を免れた学校の報道がなされていたが、本校でも裏山(せせらぎ公園)への避難道の整備を行うとともに避難訓練を繰り返し、「いのちを守る」教育を行っている。また、通学時や休日などにおいての災害への意識づけを行い、特に、国道沿いを通学してくる児童にとって車は脅威であるため交通事故に対しても併せて学習を繰り返している。

◆地域の教育力を

朝の時間を利用し読書を推進している。毎週、火・水・木の3日間は地域のボランティアの皆さんによる読み聞かせをしていただいている。各学年とも、順番を楽しみにし、物語に真剣に引き込まれるように聞き入っている姿が見られる。



また、「だいこん交流」では、だいこんの育て方から収穫・調理まで地域の皆さんに懇切丁寧な指導をいただきながら交流を楽しめている。

◆皆さんからの応援

例年、参観週間を行っている。今年は3日間の期間であったが、延べ100名近くの保護者や家族・地域の皆さんにご参観をいただくことができた。

特に、校内音楽祭は子どもたちの大きな自信となった。

◆保護者同士のつながり

体育部の主催で年2回の校内スカッシュ大会を開催している。地区対抗・学級対抗にして親睦を兼ね体力づくりに取り組んでいる。何よりPTAをあげての交流は盛り上がり、保護者同士はもちろん職員との連携も深めている。

また、町の「家庭教育支援基盤形成事業」を利用して、「親父の料理教室」も今年で7回目を迎えた。父親の考案した料理を楽しみながら、子どもたちの話が花が咲いた。懇親会でも普段聞けない親父の本音も聞け、教育に役立っている。

